

ラコルタからのお知らせ

※費用が明示されていないイベントは無料です。
※申込期限が書かれていない場合は当日までです。
※お申し込み・お問い合わせはラコルタまで。

～ボランティアしませんか？～

ぶちボラ 働きざかりの方や家事・勉強に忙しい方などに、週末や余暇の新しい過ごし方として、「短時間でできる(ぶち)ボランティア活動」のプログラムを提供します。詳細はホームページで。
<http://suita-koueki.org/puchiboraprogram/>

ラコルタサポーター ラコルタが行うイベントや活動を応援し、ボランティアとしてお手伝いしていただきます。
※ご興味のある方は、ラコルタまでお問い合わせください。

NPOが活用できる助成金について！

過去の事例をもとに「阪急阪神未来のゆめ・まち基金」について学ぶ講座です

- 日時：10月12日(土) 14:00～15:30
- 定員：先着20名

ともに学び、ともに考えよう！～NPO法人入門講座～

NPO法人を知りたい方、法人化を検討されている団体のための講座です。

- 日時：10月18日(金) 19:00～20:30
- 定員：先着10名

初心者のためのタブレット講座 ～グループ運営に役立てよう！～

タブレット端末の使い方を初歩から学び、活動・運営に役立てていくための講座です

- 日時：10月19日(土) 14:00～16:00
- 定員：先着16名

自分にあつたボランティア活動を見つけませんか？～市民公益活動入門講座～

- 日時：10月24日(木) 13:30～15:00
- 定員：先着10名

その他の施設のご案内

※費用が明示されていないイベントは無料です。
※申込期限が書かれていない場合は当日までです。
※お申し込み・お問い合わせは各施設まで。

浜屋敷 ～吹田歴史文化まちづくりセンター～

電話：06-4860-9731

すいた昔さろん ～蔵の中で昔の話を～

知ってるつもりで知らない吹田。そこらへんのちょっと昔の話を持ち寄り、楽しみましょう！

- 日時：9月19日(木)「亀岡街道と聖武天皇」
- 10月17日(木) 古老のテープを聴く「山田村の話」
- 11月21日(木) アーネスト・サトウの話(イギリス外交官) 各14:00～16:00

■定員：先着各10名 ■申込：電話で各開催月の1日から

旧暦 重陽の節句 ～人形芝居「えびすかき」とお茶席～

第一部は、平安時代より続く人形芝居と、千利休が一番多く使用した菓子(ふの焼き)の試食。第二部は明かりの下で煎茶席と抹茶席。

- 日時：10月13日(日) 17:30～20:30
- 定員：先着30名 ■参加費：1,500円
- 申込：来訪か電話で10月1日(火)から

秋あかりコンサート ～大塚善章 Jazz Night～

庭いっばいのあかりアートと、土間では大塚善章のジャズライブ。

あかり制作：大阪成蹊女子高等学校
美術：イラスト・アニメーションコース

- 日時：10月26日(土) 17:30～20:30
- 定員：先着80名 ■申込：不要

社会福祉協議会～ボランティアセンター～

電話：06-6339-1254

まだまだ間に合います！ボランティア体験プログラム

市内の施設や団体でボランティア体験をしてみませんか？受入れ施設一覧表は、社会福祉協議会、市役所や出張所、図書館にあります。ネット検索もできます。

- 日時：9月30日(月)まで
- 申込：当センターへ直接来所または郵送で

Newsletter VOL.4



出会う→集う→育てる→実る



吹田市立市民公益活動センター

- ラコルタの方針●
- ①市民公益活動を行うNPOやボランティアの活動を支援する
- ②社会に役立つことを始めようとする市民や事業者を増やす
- ③市民公益活動団体と教育・研究機関や行政との間で交流を深めて情報を共有する
- ④市民公益活動を支援できる人材の育成を図り、協働によるまちづくりを推進する

ラコルタ・ミーティングを開催しました。



7月21日(日)に、昨年度行った「ボランティアグループ・NPO実態調査」の報告と、吹田市の市民公益活動の課題についてグループディスカッションを行いました。ラコルタが提示した5つの課題(①慢性的な資金不足と資金獲得②市民公益活動の担い手不足③社会課題・地域課題へのアプローチと理念の実現④課題解決に結実した結果をどう見せるのか⑤他の組織や団体との交流・連携・協働の必要性)を市民公益活動団体メンバー、行政職員、社会福祉協議会職員、学生など28名の参加者によって議論され、斬新な意見や厳しい指摘など、市民公益活動に役立つコメントをたくさんいただきました。

参加者アンケートには「他の団体にも同じような悩みがあることが分かった」「課題についてみんなで意見交換できてよかった」「多彩な人が集まり、お互いに新しい発見ができた」「またこのような取組みに参加したい」などのフィードバックがありました。これからもこういう対話の場を設け、吹田全体の課題を市民自身で解決していくような働きかけをしていきたいと思えます。

人権を意識したコミュニケーションワークショップを開催しました。



7月19日(金)に、『仲良くなる』から『ケンカもできる』コミュニケーション～人権の視点から市民公益活動を進めるために～というタイトルのワークショップを開催しました。Facilitator's LABO(えびらぼ)を主宰する栗本敦子さんをファシリテーターに招き、3時間近くのワークショップを行いました。「もっと時間がほしかった」等の声があり、充実した内容かつ楽しいワークショップだったことが窺えます。

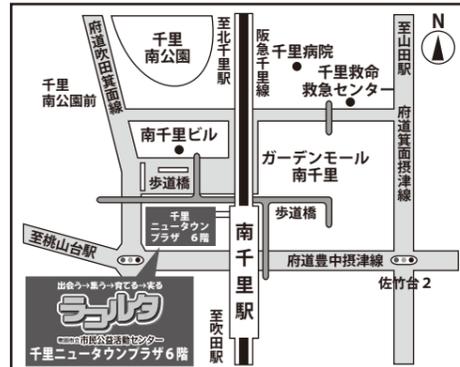
参加者に「話を聞くこと」を通じて「傾聴」の大切さを体験させ、そしていろいろな場面にある会話の「落とし穴」に気づかせてくれました。身近なシチュエーションをテーマに、日常で無意識に使っている言葉がいかにか相手を傷つける力を持っているか、「人権」をより身近に感じることができました。

最後には、アサーションというテクニックについて学び、自分の考えをどう相手に伝えるべきかを考えさせられました。参加者の皆さんには、このワークショップで得たことで、誰でも気持ちよく発言できる市民公益活動への環境づくりに役立てていただきたいと思えます。

編集後記 紙面デザイン担当の茨木です。ラコルタがOPENして早一年。9月はラコルタ1周年記念ウィークを開催します。ニュースレターも4回目の発行。毎号楽しく読みやすい紙面を心がけ、試行錯誤を繰り返しています。これからも皆さまに親しんでいただける情報を発信していきます。どうぞ引き続きご愛読ください。(茨木)

<発行責任者> 柳瀬真佐子
<編集スタッフ> 茨木由美・岩井聰・鍵谷誠一・
佐藤和男・李 顯 (五十音順)

出会う→集う→育てる→実る
ラコルタ
吹田市立市民公益活動センター
〒565-0862 吹田市津雲台1丁目2番1号
千里ニュータウンプラザ6階
TEL 06-6155-3167 FAX 06-6833-9851
Eメール info@suita-koueki.org
ホームページ <http://suita-koueki.org>
指定管理者 NPO 法人 市民ネットすいた



入居者コミュニティ活性化イベント実施

大阪府住宅供給公社と自治会とラコルタが共催し、下記イベントを開催しました。団地内で世代間のつながりが薄くなりがちな現状。コミュニティ形成の担い手である自治会や市民ボランティアの協力で“世代間交流応援イベント”(公社きずなづくり応援プロジェクト)が賑やかに開催されました。

懐かしいメロディに聴き入る方も

- 6月23日(日) 「わいわいおもちゃ教室」
主催：OPH南千里津雲台自治会
共催：心ふれあいSA吹田おもちゃ部会 おもちゃ工房“momo”
- 6月29日(土) 「ミニコンサート」
主催：府営吹田岸部住宅自治会
共催：アンサンブルユニット♪クレシェンド

市民が主役!のまちづくり

～吹田市総合計画に生かしていきたい「市民力」～

平成25年(2013年)7月19日(金)吹田市総合計画審議会の今川晃会長に吹田市役所にてお話を伺いました。



同志社大学政策学部
総合政策科学研究科
教授 今川 晃

専門は政治学、地方自治、行政学。吹田市総合計画審議会会長、公益財団法人京都市府町村振興協会評議員、米原市総合計画審議会委員長、人と街の未来をつくるカレッジ学長(公益財団法人草津市コミュニティ事業団まちづくりセンター)などの社会活動をはじめ、著書に、『個人の人格の尊重と行政苦情救済』(敬文堂)、『地域力再生の政策学』(ミネルヴァ書房)、『大学教育と地域』(公人社)など多数。

現在見直し中の計画(素案)の中では「市民が主体となるまちづくり」が重要であると位置づけられていますが、市民が主体となり活躍していくためには、どういったことが必要になってくるでしょう。

吹田に限らず、これからの自治体の財政はますます厳しくなっています。財政的に厳しいから市民と協働というのであれば、単なる行政の下請けになってしまいます。「地域でできることは地域で解決する」という姿勢は大事ですが、高齢者への支援など、その地域だけ、もしくは一つの主体だけで取り組んでも完結できないことがあります。もちろん国も課題解決のため全国的な観点から基準作りをしますが、地方分権の今では地域にあったサービスの基準作りが市町村でもできるようになってきました。しかし、「人間は狭い社会で頑張っても、別の大きな社会が小さな社会を操作している現実がある」というプラトンの「洞窟の比喻」からも、その地域に合った基準作りを進めるには、地域の課題を市政府(市や議会)に反映できる仕組みづくりが必要です。

その地域に合った市民公益活動の促進とは?

吹田市はコミュニティの在り方において地域性の違いが大きいと聞いています。自治会の加入率が高いところもあれば低いところもある、先ずこのような地域特性をとらえることが必要になってきます。仮に高齢化率の高い地域であれば、特定のテーマに基づいて活動するNPOが、高齢者に向けた支援に向けて地域の人たちと一緒に課題解決に動くことが考えられます。この場合、NPOがつなぎ役としてどう動けるのが重要になってきます。課題解決には多様な主体がつながり合うこと、つまり連携が必要です。連携は違いがあるからこそできるのです。また、CB(コミュニティビジネス)やSB(ソーシャルビジネス)などは、市民公益活動の経済的な自立につながるだけでなく、地域の様々なNPOや企業、特に中小企業と連携することにより地域の課題解決にあたることができます。

吹田市総合計画審議会 吹田市第3次総合計画について、様々な立場の人の意見を反映し、市民参加で策定作業を進めていくため、学識経験者や公募で選ばれた市民などで構成される総合計画審議会を設置しています。



平成18年度(2006年度)に策定された吹田市第3次総合計画は、昨今の急激な社会経済状況に対応するため、現在抜本的な見直しが行われています。この見直した計画(素案)の中でまちの将来像「人・まち 元気創造都市 すいた」の実現に向けて、計画や事業を着実に進める2つのベース(基本姿勢)のうち、1つに「市民が主体となるまちづくりを推進します」を掲げ、「市民自治の確立をめざします」の市民公益活動推進の具体的な取り組みとして、①市民公益活動を促進するための交流の場づくりや情報提供、相談体制の充実、②地域活動や市民公益活動の担い手としての人材育成やボランティアコーディネート、③市民公益活動センター機能の充実などが謳われています。そこで、今回の特集では吹田市総合計画審議会会長である同志社大学政策学部の今川晃教授に総合計画における市民公益活動の位置づけやラコルタ(市民公益活動センター)の役割についてお話を伺いました。

お話ができましたCB(コミュニティビジネス)やSB(ソーシャルビジネス)※1)について教えてください。

私はCBよりもSBと表現することが多いのですが、NPOが地域課題解決に必要な商品を開発する、例えば高齢者にとって、より使いやすい杖が必要だと考えた時に、地元の工場と提携して開発することで地域を活性化することもできます。京都府では北部地域と南部にあたる京都市域との間の経済的な格差、いわゆる「南北問題」があるといわれていますが、この地域課題の解決をSBで取り組んでいるケースがあります。お互いの特性を生かしあう、地域が違うからできる連携です。吹田市も地域性の違いが大きいたら、このような地域と地域の連携を考えることができます。NPOも組織を維持するためには、地元の中小企業と協働できるような仕組みを生み出すことが必要であり、行政は協働の実態を作り出し、支援するための案内役であってほしいです。

吹田市の市民公益活動の現状について、どのようにお考えですか。

先ず、NPOの特性を知ることが大事ではないでしょうか。市民公益活動の担い手の一つであるNPOは組織としての継続性が求められますので、核となる事務局があり有給の職員が必要です。外国のようにNPOに対しての寄付行為が根付いていない中、行政からは事業補助が中心で間接経費はほとんど出ません。企業への事業委託では間接経費の比率が高いことを考えれば、NPOを育てるのであれば、団体を維持するための間接経費を出していくような仕組みを作っていないといけません。また一方では、多くのボランティアが地域の非営利活動を支えています。収入をもらっている人がいるNPOと地域ボランティアとの軋轢が起き始めていると聞きます。市民社会を形成する意味を学び、多様な立場の市民が連携していくためには、地域で話し合う仕組みが必要で

すが、これが実に難しいです。私は、かつて三重県津市で住民自治協議会(地域で自主的に運営していく組織)に関わりましたが、中心になって進めるのは地域をよく知っている自治会だという声が上がる一方で、これからの新しいコミュニティづくりであればNPOが中心となって自治会と一緒にという意見も出て、調整がつかず途中で空中分解した経験を持っています。問題がどこにあったのかを考えると、お互いのお互いに対する思い込みが大きかったのではないかと、双方が知り合い、尊重して学び合うというプロセスを踏まなかったことにあると思っています。

市民公益活動団体同士の軋轢といった課題解決へのヒントはありますか。

水俣市では地域が対立した時に、「もやい直し※2)」という考え方で解決していきました。お互いの役割を知らないままに思い込みで発言することでは地域課題の解決には及びません。まず、知り合う機会をどう作るのかですが、10年ほど前に、愛知県知多市で災害をテーマにラウンドテーブルを持ったことがあります。災害が起こった時、自治会なら、NPOなら、行政ならどうするのか、それぞれの立場で何ができるか、どこが違うのかなどの意見を出し合った後、どこどこをつなげば、より効果が高い取り組みができるのかを考え合いました。お互いの違いが認識されることで、連携する必要性を実感できたと思います。時間はかかりますが、その過程を踏まないとお互いが理解し合い尊重し合うことは難しいです。このような仕掛けは、中間支援団体や行政が行うべきでしょう。最近では、生涯学習を行う文化団体も施設を回って社会貢献活動をやっているところは多いですし、地域には、人の特性を生かし活躍の場を生み出す、結びつけのうまい人たちがいます。「公共人材」養成講座などもありますね。そのような取り組みの核になって動くのも中間支援団体です。行政もできますが、専門性が高いのは中間支援団体です。

※1) コミュニティビジネス(CB)、ソーシャルビジネス(SB) 地域の住民が、地域課題やニーズに対応し、その解決のために必要なサービスなどをビジネスの手法で提供する事業をいいます。営利目的ではなく、地域の利益を増大させることを目的とします。

※2) もやい直し 「もやう」とは船と船をつなぎ合わせること。「ばらばらになってしまった心のきずなをもう一度つなぎあわせる」という意味の造語で、水俣病被害者が提唱し始めたこととされる。人と人との関係、自然と人との関係がいったん壊れてしまった水俣で水俣病と正面から向き合い、対話し協働する取り組みを「もやい直し」と名づけている。

ラコルタはNPOだけが対象と思われがちですが、多世代交流を望む自治会と住宅供給公社と協働し、住民向けのイベントを企画し実施をしたこともあります。

やはり、お互いを知る、違いを知るきっかけ作りや場があることが大切です。そういう意味でラコルタは重要な存在ですが、自治会や企業などには行政がつなぎ役の支援をすることが必要でしょう。民間同士で、地域の課題解決に向けて新しいものが生み出せると思いますが、行政はそこを支援していく役割があります。企業や地域コミュニティへのつなぎ役として行政がラコルタの背後支援を行い、ラコルタが市民全般の連携促進を行ないながら、NPOなどの市民公益活動の自立につなげていけばいいと思います。

連載 私たちの団体・私たちの活動 市民公益活動団体インタビュー



第1回 NPO Heart・Heart 代表 梓 たかさ

Q 活動を始めたきっかけは何ですか? どうしてNPOとして活動しようと思いましたか?

A 「ヨーガで万人を健康にする」と言ってヨーガサークルを始めて2年半になります。多くの方にヨーガを体験してもらえよう、商業的なスクールではなく、だれでも気軽に参加できるサークルを立ち上げました。私はヨーガ療法と出会って、自分自身が体調が良くなりました。

Q ヨーガを行うことで地域社会にどのような変化をもたらすことができますか?

A 初めの頃ふらついて出来なかった片足で立つことも、ほとんどの方が今では安定してできています。皆さん「静かにゆっくり動いて規則正しい呼吸をすると、スッキリして気持ちいい」と言われます。中高齢者の生活習慣病を予防改善する効果があるヨーガ療法を広め、参加者に「無理に頑張る」ことなく、ヨーガで心身をリラックスさせることでストレスの少ない日々を過ごしてほしいです。

Q ラコルタで開催している「50才～の和みヨーガ」について教えてください。

A 杖を手に歩く方々も参加できるような、ゆっくり呼吸を行いながらの体操です。買い物や図書館ついでにラコルタでヨーガができるという手軽さから、たくさんの方々が継続的に参加しています。

Q これからの意気込みをお願いします!

A ヨーガ療法を行って、薬だけに頼らない心と体を作ってほしいと思っています。今後、「50才～の和みヨーガ」がさらに普及し、元気で明るい高齢者が増え、地域全体が明るくなればと願っています。

